

今年度 寒河江SA・櫛引PA急速充電器設置予定!

NEXCO東日本では、平成27年8月28日から山形自動車道「山形蔵王PA」上下線に急速充電器各1台を設置し、運用サービスを行なっています。このたび「寒河江SA」及び「櫛引PA」(各々上下線各1台)に急速充電器を整備する方針が示されました。これにより県内の高速道路において、3箇所のSA・PAに急速充電器が設置される見込みとなり、EV・PHEVでの県内移動が一層快適になります。設置予定の充電器は、24時間・年中無休で「三菱充電カード」がご利用いただける機種となります。



寒河江サービスエリア上下線施設



櫛引パーキングエリア上り線施設

12月1日現在、県内急速充電器設置数は78箇所、今後高速道路以外では、朝日町「道の駅あさひまち」、高島町役場庄内町農産物交流施設「風車市場」の3箇所が間もなく工事を完了し「三菱充電カード」でのご利用が開始されます。

PHEVオーナー様より寄稿いただきました ①



「PHEV車使用の感想」

平成25年8月31日に納車して戴き、現在、59,700kmの走行距離となりました。仕事上での使用もあり、月平均で2,200kmくらいの走行となります。今までの車はアウトランダーの2,400ccで、月4,000km～5,000kmくらいの走行で約60,000円位のガソリン代であったと思います。PHEV車にしてからは、夏にクーラー、冬にヒーターを使用するので、夏期はガソリン代が安く電気代が高い、冬期は電気代が安くてガソリンを多く消費するという状態です。月の経費は、夏は電気代+ガソリン代で約23,000円、冬も同じく28,000円位です。一年通して一番経済的に走れる期間は4月～6月、及び9月～12月頃まで非常に経済的に走行でき、電気代+ガソリン代で20,000円を下回る状態です。従って、一日の走行距離が100km未満で、自宅毎日充電可能な環境ならば、経済的にバランスよく使用できると思います。冬道等の走行は4WD走行で非常に楽です。 南陽市在住 70歳 嵐田 修

今回は長井店のお客様、嵐田様よりご寄稿いただきました。PHEVにお乗りになってからの嵐田様の燃料費は年間約27万円程度。前のお車の時よりも走行距離は少なくなられたようですが、月々約6万円かかったガソリン代からくらべれば年間45万円もの経費削減になります。嵐田様ありがとうございました。

新型PHEV燃費レース、山形三菱チームの成績は

11月16日(月)東北の三菱自動車販売会社対抗で「新型アウトランダーPHEV 燃費レース 東北大会」が開催されました。レースは、青森三菱 本社～秋田三菱 大館店(浪岡～碓ヶ関ICは高速利用)約80km、秋田三菱大館店～岩手三菱 北上村崎野店(十和田～花巻空港ICは高速利用)約170kmの全約250km(内 高速約165km)を満充電でスタート(充電はスタート時のみ)山形三菱チームは、前半45.8 km/ℓと他社を圧倒する燃費を記録。8社平均35.7km/ℓに10.1km/ℓもの差をつけて高速道路区間の多い後半へ臨みましたが結果は東日本三菱チームが総合燃費23.4km/ℓで優勝。山形三菱は第2位でした。

チーム	ポイント	順位	総合燃費
東日本三菱	37	1	23.4
山形三菱	27	2	23.2
青森三菱	23	3	22.9
岩手三菱	23	3	22.2
東北三菱	22	5	22.5
秋田三菱	18	6	22.6
東奥三菱	15	7	22.2
宮城三菱	11	8	20.7

250km走行するのに使用したガソリンは約10.7ℓ、ガソリン代1337円(125円/ℓ換算)急速充電料金30分/162円(三菱販売店で三菱充電カード使用の場合)、合せて1499円で走行したことになります。

☆上位チームの燃費アップ策

1. 他の一般車両に迷惑をかけない速度でできるだけ定速走行します。
2. 下り坂、赤信号ではセクターレバーでB0にして車を滑走させ、停止するときはB5で回生ブレーキをフルに使って充電します。
3. 停止中は、ニュートラルにして無駄な電気使用を抑制します。

★セクターレバーをB0ポジションにして、回生ブレーキを効かせず、慣性力を最大限に活用する

「回生レベルセクター」ステアリングに手を添えたまま、指先で素早く操作できます。回生ブレーキ力は【B0】～【B5】の6段階で調整可能。最大となる【B5】では、駆動用バッテリーを最も多く充電できます。【B0】では、回生ブレーキ力が働かないため、アクセルを離しても慣性走行となり、どこまでも進んでいくような走りを体感できます。まるで氷上を滑っているような滑空感を体感!



山形三菱の各店でアウトランダーPHEVを1泊2日無料でモニターできます。思う存分体感して下さい